



読字原田 鏡

No. 740

2014/8/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区湯島
4-1-1 1F

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



映画「望郷の鐘」―山本慈昭が問いかけたもの―

次の文章は、前号で紹介した映画「望郷の鐘」の満蒙開拓団の落日く上映製作実行委員会・おみやげ「結成総会」で青木先生が呼びかけ人を代表してあいさつしたものです。

『満州』最大の悲劇―佐渡開拓団事件―

1945年(昭和20)年春、長野県阿智村で長岳寺の住職兼国民学校の教師をしていた山本慈昭のもとに、満蒙開拓団員11生徒の教師役として阿智郷開拓団へいってこないかという打診が村からあつて、結局妻と二人の娘を連



呼びかけ人を代表してあいさつする青木先生

れて送出されることになった。阿智郷は、旧満州国「の東安省(現黒竜江省)宝清付近で、ロシア国境まで約80キロもない最東北端であった。1年間の約束であったが、渡満して3カ月後の8月9日にソ連が参戦し、悲惨な逃避行が始まり、佐渡開拓団にたどり着いた。満州」最大の悲劇と言われる佐渡開拓団事件は、8月末に起こった。ソ連軍の攻撃で950人が死亡し、集団自決で514人が死亡した。

開拓団員家族の死者は合計1464人にのぼった。

「望郷の鐘」によると、215人いた阿智郷開拓団の中で逃避行した181人のうち、帰還しているのはわずか10人、国民学

「日中友好手をつなぐ会」を結成

1972年9月、日中国交回復をした。いきている希望を持った山本慈昭は、国交回復後すぐに動いた。すぐに、

残留孤児と日本の肉親との再会第1号が実現した。NHKやマスコミ各社がこのニュース

われた。やつと辿り着いた勃利県倭肯の収容所で団員は次つぎに栄養失調や発疹チフスで死んでいった。

山本慈昭は、佐渡開拓団事件後、勃利でソ連軍に捕まり、家族と別れてシベリアへ抑留された。

老人の告白―山本先生の長女は生きています―

1969(昭和44)年、阿智村開拓団の一老人が病重く死をまえにして山本慈昭に告白したと「望郷の鐘」は語っている。老人は山本先生に嘘をつき続けていたといった。満州へ渡った阿智郷の女性や子ども達は皆死んだといっていたが、それは自分たち引揚者の後ろめたさに、口裏を合せた作り話である。実は何人かは生きています。老人は、山本先生の奥さんと井原老人の大人3人で17人の子供を引きつれて勃利の倭肯まで逃げた。発疹チフスにかかって死亡する子

もでてきた。そこで3人で相談の末、子どもは全員中国人に預けてきたという。山本先生の1歳の次女純江は、途中発疹チフスで死亡した。山本先生の奥さん千尋は4歳の長女啓江を背負い、ハルビンの方向に向かつて行った。奥さんはその途中で亡くなり、長女啓江は中国人に引き取られたという噂がある。山本先生の奥さんはおそらく死んだと思うが、長女は生きていますはずだと告白した。告白を終えた老人は、重荷を下ろして、安らかに息をひきとった。

国による

訪日調査が始まる

1981(昭和56)年政府・厚生省の集団訪日調査は予算化され、国による残留孤児たちの集団訪日調査が遅まきながら開始された。マスコミも協力し、肉親捜しのために来日する孤児たちの話題を報じた。一方、1982(昭和57)年の現地調査で、山本慈昭は生きていた残留孤児の長女啓江に会うことができた。

2002(平成14)年から全国で始まった中国残留孤児訴訟は、原告団に2211人の残

留孤児が加わった。口頭弁論で残留孤児が過去の人生がいかに悲惨であったかという意見陳述をしても、国策により大量に移民させるといふ政府の先行行為を追求しても、国家無答責や受忍論を振りかざして、神戸地裁判決以外は、すべて国家賠償は却下され、敗訴した。

岡山の「孤児」訴訟

2004(平成16)年2月20日、岡山地方裁判所で中国残留孤児の国家賠償請求訴訟が提訴された。奥津亘弁護士が弁護団長に、則武透弁護士が弁護団事務局長に就任した。岡山・香川県27人の残留孤児原告団長には高杉久治が就任した。

岡山地裁での法廷の口頭弁論の焦点は3点あった。第一に「早期帰国義務違反」第二に「帰国妨害」、第三に「自立支援義務違反」である。戦後すぐに参議院本会議で中国に残っている邦人の存在と窮状を訴えている。昭和24年の時点で、相当数の孤児が独力では帰国できず、日本語を忘れ、名前すら忘れていた孤児がいるのを政府・厚生省は認識していた。

二面につづく

一面からのつづき

中国政府や紅十字会の協力を得て照会すれば、帰国は可能だった。しかし、国は消極的姿勢で無策であった。中国との国交回復をしても、集団訪日調査が実現したのは9年後である。山本慈昭は、その間民間人でも約2000人の孤児の帰国を可能にしている。

残留孤児裁判で明らかになった政府・厚生省の早期帰国義務違反は、山本慈昭の活動によって明らかである。孤児の帰国に関しても、身元保証人制度を楯にし、孤児を家族に押しつけようとした。

国籍問題に関して孤児を外国人扱いしたり、国の責任を放棄しようとした点が明らかになった。

かになった。まして、永住帰国ができて、わずか4カ月の帰国者センターの研修のみで自立支援を済ませようとした。そうしたことが裁判の焦点となった。

おわりに

山本慈昭の活動の意義

2007年衆参全会一致で中国残留邦人に関する支援法改正につながった。1990年に山本慈昭は死亡したが、山本慈昭の活動があったからこそ、この支援法改正につながったといえるのではないかと山本慈昭の活動の意義はここにある。

岡山きりえ展

5月17日から22日まで岡山天神山プラザで、第27回岡山きりえ展が開催された。

今回は13人の方が32点の作品を出展されました。近づいたり、離れたりしながら鑑賞しました。案内ハガキの表に使われている土井幸弘さんの誕生日カード1月6日「が印象に残りました。21日の土曜日に参観した時に、横谷さんの「岡山の風景三宅さんの「高校球児」をバックに写真を撮りました。日中友好協会岡山支部は、毎回協賛団体として、展示の成功のために協力してきました。



左から三宅さん、横谷さん、田川さん

た。中国で1000年以上の歴史をもつ「きりえ」日中の文化交流のひとつとして、今後も大切にしていきたい。

特定秘密保護法 日本外国特派員協会会長声明

日本外国特派員協会は現在日本の国会で審議中の「特定秘密保護法案」を深く憂慮しています。

特に、われわれが懸念しているのは、同法案の中にジャーナリストに対する起訴や禁固を可能にする条文が含まれており、与党議員の一部が、それに順ずる発言を行っていることです。

開かれた社会における調査報道の真髄は、政府の活動に関する秘密を明らかにし、それを市民に伝えることにあります。そのような報道行為は民主主義の基本である抑制と均衡のシステムに不可欠なものであつて、犯罪などではありません。

具体的な警告文まで含まれています。これはメディアに対する直接的な威嚇であり、十分に拡大解釈の余地がある表現は、政府に対し、ジャーナリストを意のままに逮捕する権限を与えることとなります。

日本外国特派員協会の会員には日本国籍を有する者と外国籍を有する者が含まれていますが、1945年に設立された由緒ある当協会は常に報道の自由と情報の自由な流通こそが、日本と諸外国との間の友好関係や相互理解を維持、増進するための不可欠な手段と信じてまいりました。

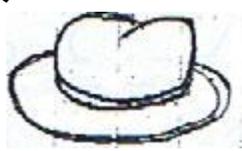
そのような観点から、われわれは国会に対し、「特定秘密保護法案」を廃案とするか、もしくは将来の日本の民主主義と報道活動に対する脅威とならないような内容への大幅な修正を、強く求めます。

ルーシー・バーミンガム
日本外国特派員協会々長
平成25年11月11日

ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか？

83

竹内和夫



教科書をつくろう (2)

A: /n-/と/-n/の区別も注意。/n-/はナニヌネノ、ニヤ ニュ ニョの子音で、/-n/はンに相当する。/n-/は拍の頭にくるが、/-n/は、ひとつで1拍になる。「パンを」などの発音が3拍になるように、「パノ」にならないように。koñyaku(婚約)とkoñnyaku(コンニャク)はともに4拍だ。まぎらわしくないときはñを使わなくてもいいだろう。

B: 発音の問題をもうひとつ、母音の長さに注意して: 練習問題(3)

(例) cizu	地図	→	ciizu(チーズ)
kakiiro	柿色	→	k___kiiro ()
kado	角	→	g___do ()
kabu	カブ	→	k___bu ()
tabi	旅	→	d___bii ()
nodo	喉	→	n___to ()
biru	ビル	→	b___ru ()
hokeñ	保険	→	h___keñ ()
hosu	干す	→	h___su ()
tori	鳥	→	t___ri ()
yukai	愉快	→	y___kai ()
syoki	暑気	→	sy___ki ()
hosi	星	→	h___si ()
tokei	時計	→	t___kei ()

つづく

NHKラジオ深夜便

8月12日(火)午前1時
日中新聞読者の中本輝夫さんが父の死地を探し求めてと、父の死地がベトナムであること突き止めた、平和へのメッセージを熱く語ります。

次の新聞送付作業は

8月18日(月)午後1時半
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。
小林和
竹内和
竹内和
坪井三